

序文

早稲田大学エジプト学研究所の紀要「エジプト学研究第19号」が発刊されるはこびになりました。書いた人、データを整理した人、図を描いた人、写真を撮った人、編集した人など、これに関わった人みなさんおつかれさまでした。調査・研究という学術行為はやることも重要ですが、それを整理し、公開し、関心のある方たちにお伝えすることが非常に重要なんです。いわゆる情報公開です。そして自分たちの取得したデータを基に参加した隊員がそれぞれテーマを見付けて研究するというスタイルが理想的な考古学なのです。しかし最近はそれが守られていない場合が多いのです。というのは日本国内での考古学は行政発掘がほとんどで、自分の研究分野と違うところを調査するからです。もっと踏み込んで言うなら望んでいない場所の調査を所属している組織の命令か、お金のためにやっているため、研究の域に達しないどころか通り一遍の報告書の刊行をもって終わりとしてしまうからです。しかし我々のエジプト調査研究は全く違うのです。というより違わないといけないのです。しかし残念ながら理想とはかけ離れてしまっています。今回は報告という点ではそれなりにできていますが、論文という点ではだめでした。その理由は研究所に所属している諸君は十分にわかっているものと思いますが、何故自分がこんなに苦労して今のところにしがみついているのかをよく考え、研究に励んでいただきたいと思います。

吉村 作治
早稲田大学名誉教授